

平成18年度学術創成研究費 事後評価結果

研究課題名	食物質による免疫作動機構の解明と応用技術の開発	研究代表者名	石川 博通
-------	-------------------------	--------	-------

1 研究計画、目的の達成度について

当初の研究計画、目的に照らし、採択時以降の関連分野の学術動向を踏まえた上で、その達成の度合いはどうか。

- ア () 予定以上に達成した
- イ () 概ね予定どおり達成した
- ウ (×) 一部不十分である
- エ () 達成していない

意見：
腸管免疫において新たなリンパ組織の発見などの初期の成果は評価できる。しかし、経口免疫寛容や治療法の開発など研究計画の項目に手がつけられていない。

2 当該学問分野及び関連学問分野への貢献度について

当該学問分野及び関連学問分野における研究の発展に関し、貢献の度合いはどうか。

- ア () 十分に貢献できた
- イ () 概ね貢献できた
- ウ (×) 一部貢献できた
- エ () 貢献できていない

意見：
新たな免疫組織の発見やGVHD発症のメカニズムなどで一定の貢献が認められる。

3 研究成果について

(1) 学術創成研究費の趣旨及び当初の研究計画、目的に照らし、学術創成研究費としての意義ある成果をあげたか。(又はあげつつあるか。)

- ア () 非常に高く評価できる
- イ () 概ね高く評価できる
- ウ (×) 一部高く評価できる
- エ () 高く評価できない

意見：
一部に成果も認められるが、応用技術などの展開などに必要な基盤技術もまだ未発達に思われる。

(2) 研究成果の普及性、波及性はどうか。また、研究成果の積極的な公表に努めているか。

- ア () 非常に高く評価できる
- イ () 概ね高く評価できる
- ウ (×) 一部高く評価できる
- エ () 高く評価できない

意見：
専門誌への発表は一定数あるが、全体として普及性、波及性は不十分である。

4 研究課題の総合的な評価

該当欄		評価結果
	A +	期待以上の進展があった
	A	期待どおり進展した
×	B / F	期待したほどではなかったが、一応の進展があった
	C	十分な進展があったとは言い難い

F：研究費の不正使用があった。

総合的な評価意見：

研究の初期には GVHD の発症とパイエル板の関係や、腸管内における新たな免疫組織の発見などの成果を挙げ、論文を公表している。しかし、各研究者間の連携は希薄であり、当初目的としてあげていた「経口免疫寛容」を初めとする応用的研究の展開に関しては成果が極めて乏しい。公表論文数は一定のレベルに達しているが、全体として成果は不十分であった。

特記事項：上記の学術的な評価とは別に、本研究課題において、業者への、いわゆる預け金などによる多額の研究費の不正使用が行われたことは、誠に遺憾である。文部科学省及び日本学術振興会では、不正に使用された研究費の返還を求めたとともに、一定期間、補助金の応募資格を停止したが、大学及び研究代表者など関係者は猛省し、今後、このようなことが絶対に生じないよう、姿勢を正していただきたい。